

## 第210回（令和5年5月28日施行）

### 基礎簿記会計

#### 第1問〈帳簿記入についての出題〉

記帳の対象なる取引（帳簿に記入すべき出来事）についての理解を確認するため、簿記上の取引の判断を問うている。

1. 販売契約を行い、注文を受けていた商品を引き渡した際の判断を確認している。
2. 商品を注文した際の判断について確認している。
3. 修繕に関する見積もりの回答を得た際の判断について確認している。
4. 店舗の賃借契約を更新した際の判断について確認している。

#### 第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、全経町会の町会事務所の電話料金を現金で支払った取引である。発生した通信費（費用）を現金（資産）で支払った際の記帳を問うている。

2. は、全経町会の町会長が、町会の活動の一環として市役所に移動した際の交通費を支払った取引である。発生した交通費（費用）を現金（資産）で支払った際の記帳を問うている。

3. は、全経町会が保有している現金を銀行預金（普通預金）に入金した取引である。現金（資産）が減少し、普通預金（資産）が変動した際の記帳を問うている。

4. は、商品売買業者（中古車販売業）が商品（軽トラック）を販売した取引である。商品（資産）の減少と、その代金として現金（資産）と代金を後で回収する権利である売掛金（資産）の増加、および発生した商品販売益（収益）の記帳を問うている。

5. は、商品売買業者（中古車販売業）が商品（小型自動車）を代金後払いの条件で購入した取引である。商品（資産）の購入と、掛け取引によって買掛金（負債）が増加した際の記帳を問うている。

6. は、銀行から資金を借り入れた取引である。借入金（負債）が増加し、現金（資産）が増加した際の記帳を問うている。

7. 商品売買業者（中古車販売業）が前月に購入した商品の掛け代金を支払った取引である。買掛金（負債）の支払いと、その支払いによって現金（資産）が減少した際の記帳を問うている。

8. 商品売買業者（中古車販売業）が自社で使用する土地を購入した取引である。土地（資産）の増加と、その支払いによって現金（資産）が減少した際の記帳を問うている。

### 第3問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。本問では、日記帳としての仕訳帳に記入されている取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。適切な勘定科目の勘定口座の借方または貸方に、相手勘定科目、丁数、金額を適切に記入できるかを試している。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、指定された解答欄に適切な用語または数字を記入することに注意する。

### 第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

1か月の収支計算を示すことによって会計報告を行う場合には、前月繰越金から出発し、報告する1か月の活動による変動を経て、次月繰越金に至ることを示す会計報告書を作成する。

本問では、現金出納帳の記帳から卓球サークルの会計報告書（勘定式）を作成できるかを問うている。解答に際しては、【解答にあたっての注意】にあるように、複数ある支出項目については、指定された順番で記入することに注意する。

### 第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。

本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から精算表を作成できるかを問うている。解答用紙にあらかじめ示されている勘定科目について、借方残高であるのか、貸方残高であるのかを正しく判断できているか、そして作成した残高試算表欄から損益計算書欄と貸借対照表欄を正しく作成できるかを試している。